

群馬県 御中

分析レポート

地域に必要なことを、自分たちで考え、
協力して取り組むために、どんなことが
必要だと思いますか？

PoliPoli Gov

2024年12月12日



意見募集の概要・実施結果

- **実施内容**：協働による地域づくりのための意見募集を行った。
- **調査方法**：デジタルツール「PoliPoli Gov」を用いたインターネットリサーチ
- **意見募集のテーマ**
 - 地域に必要なことを、自分たちで考え、協力して取り組むために、どんなことが必要だと思いますか？
- **調査期間**：2024/09/17～2024/10/31（45日間）
- **調査地域**：全国オンライン
- **ページ閲覧数**：818PV
- **総コメントユーザー数**：110人（*ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出）
- **総コメント投稿数**：117件（*コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出）
- **回答者の属性（必須回答）**：
 - **群馬県との関わり**：群馬に居住・通勤・通学している, 過去、過去、群馬に居住・通勤/通学した, 観光などで群馬を訪れた, 群馬を訪れたことはない, 非回答
 - **年齢**：10代以下, 20代, 30代, 40代, 50代, 60代, 70代以上, 非回答
 - **職業**：学生, 会社員・公務員, 自営業・役員, 無職, 非回答

意見募集の仕組み

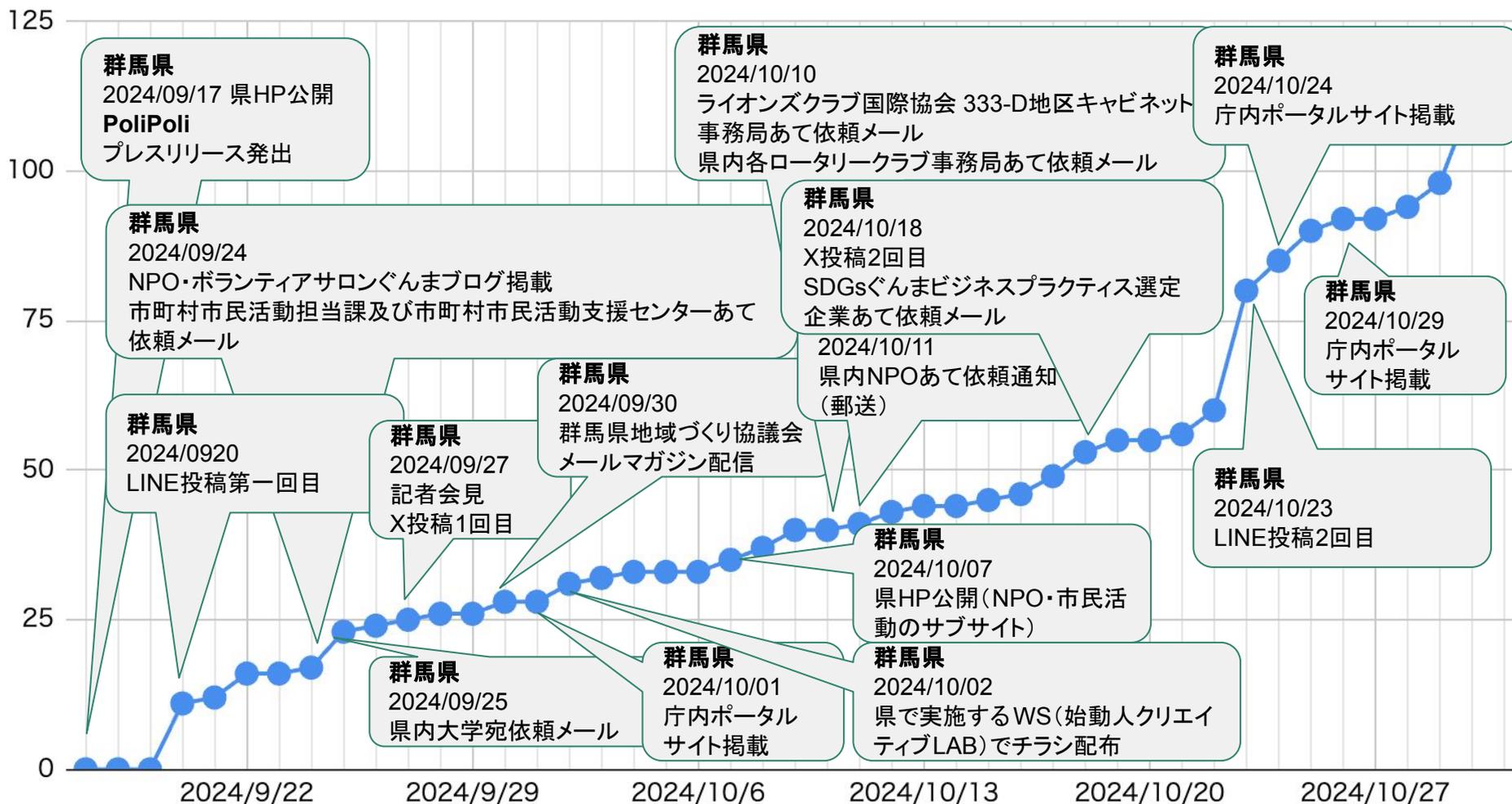


※プラットフォーム内のコミュニティを健全に保つため、投稿されたコメントが攻撃的な内容や広告目的と判断された場合に、運営側でコメントを非公開としています。



意見募集の概要・実施結果 | コメント数の日次推移

コメント数推移（日次）

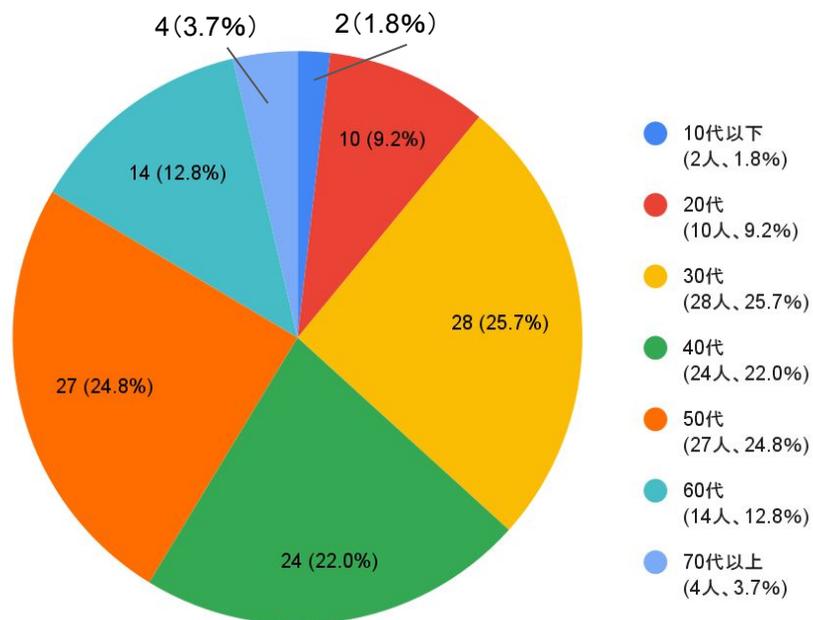


意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

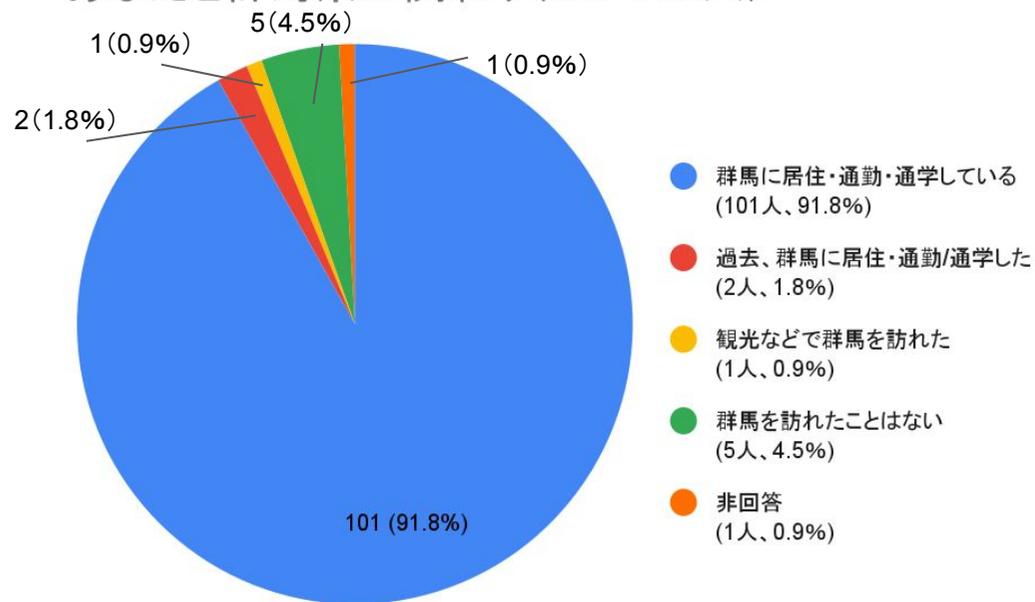
年代については40代以上が、63.3%と半数を超えた

回答者のうち 90%以上が群馬県に居住・通勤・通学しているユーザーとなった

あなたの年代(UU 110人)



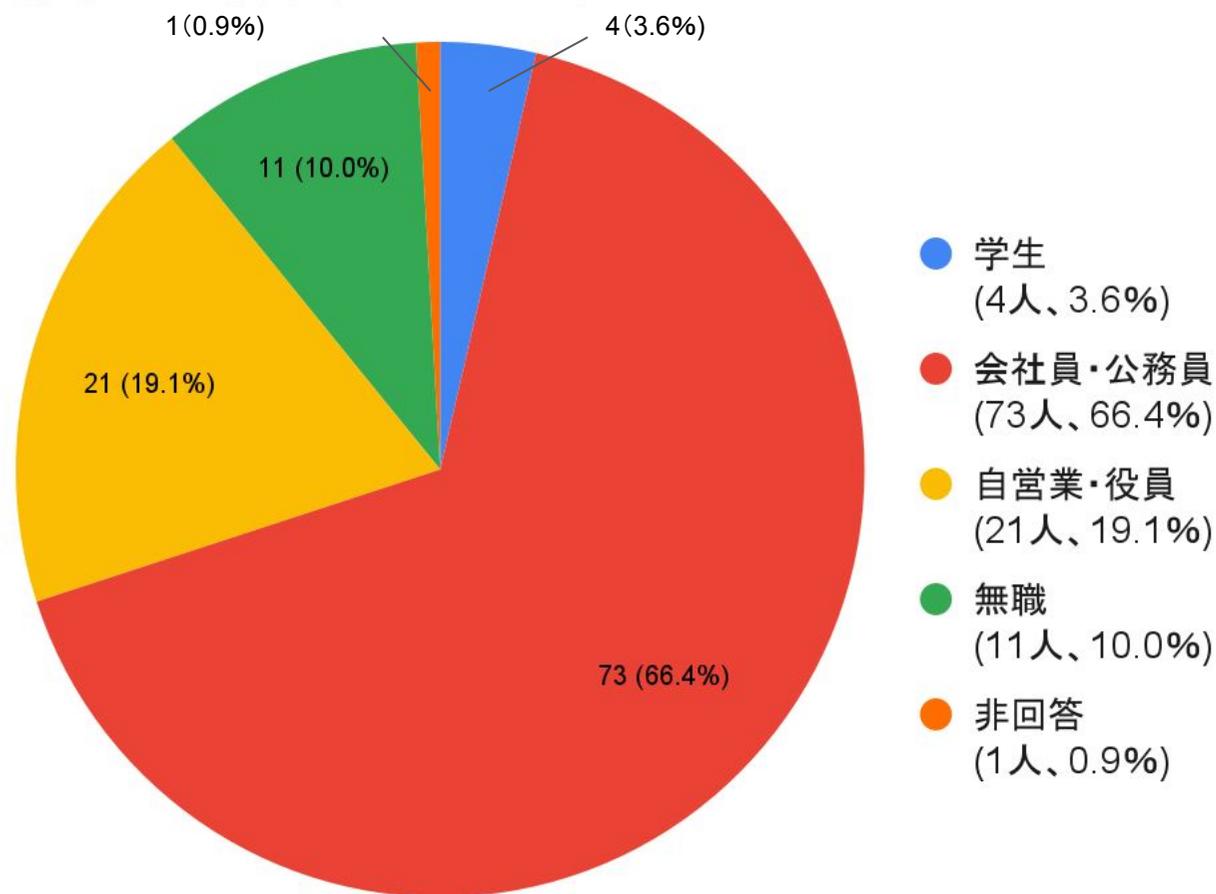
あなたと群馬県の関わり(UU 110人)



意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

年代とも関与するが、「会社員・公務員」「自営業・役員」のユーザーが8割近い結果となった

あなたの職業(UU 110人)

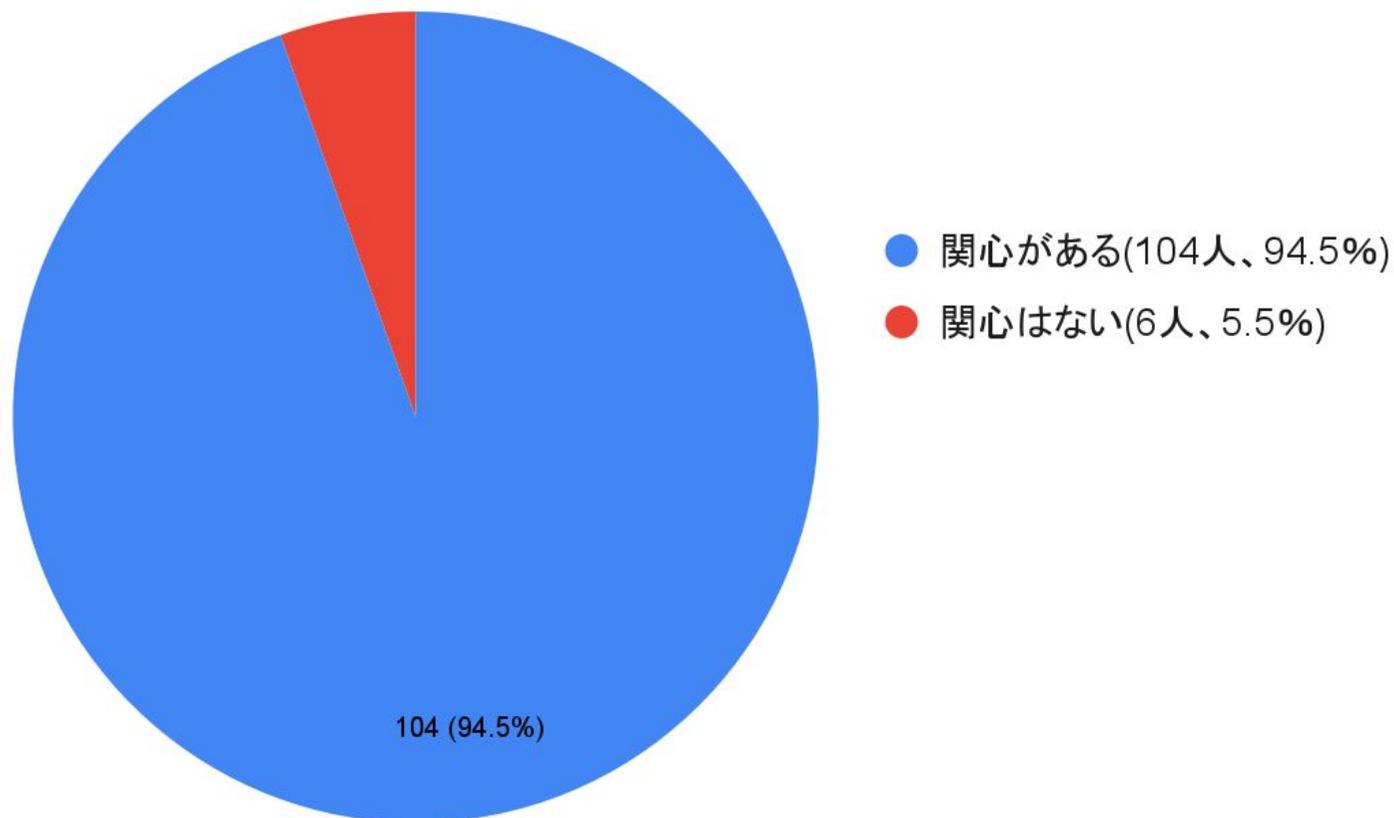


※UU=ユニークユーザー数。複数コメントした場合でも同一ユーザーとしてカウント

意見募集の概要・実施結果 | 選択式設問への回答

関心があるユーザーが基本的に回答している結果となった

地域づくり(地域をよりよくするための自主的な取り組み)に関心がありますか？(UU 110人)

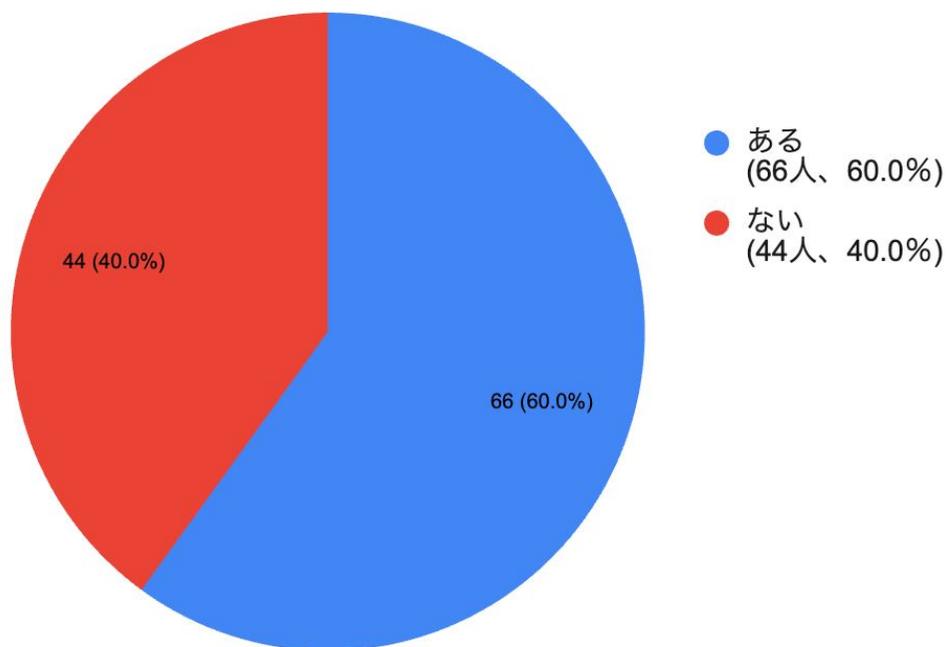


意見募集の概要・実施結果 | 選択式設問への回答

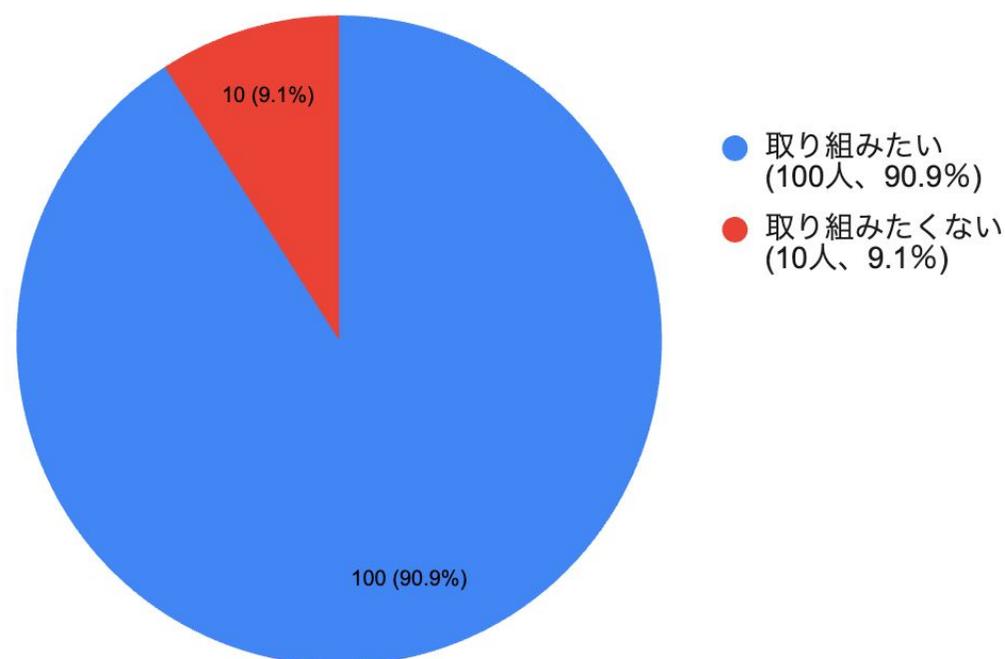
取り組みの実績では、半数以上が取り組み実績があった一方で、取り組み実績がないユーザーも4割が回答を寄せていた。

今後取り組みたいユーザーは9割を超えた

今までに、地域づくりに取り組んだことがありますか？ (UU 110人)



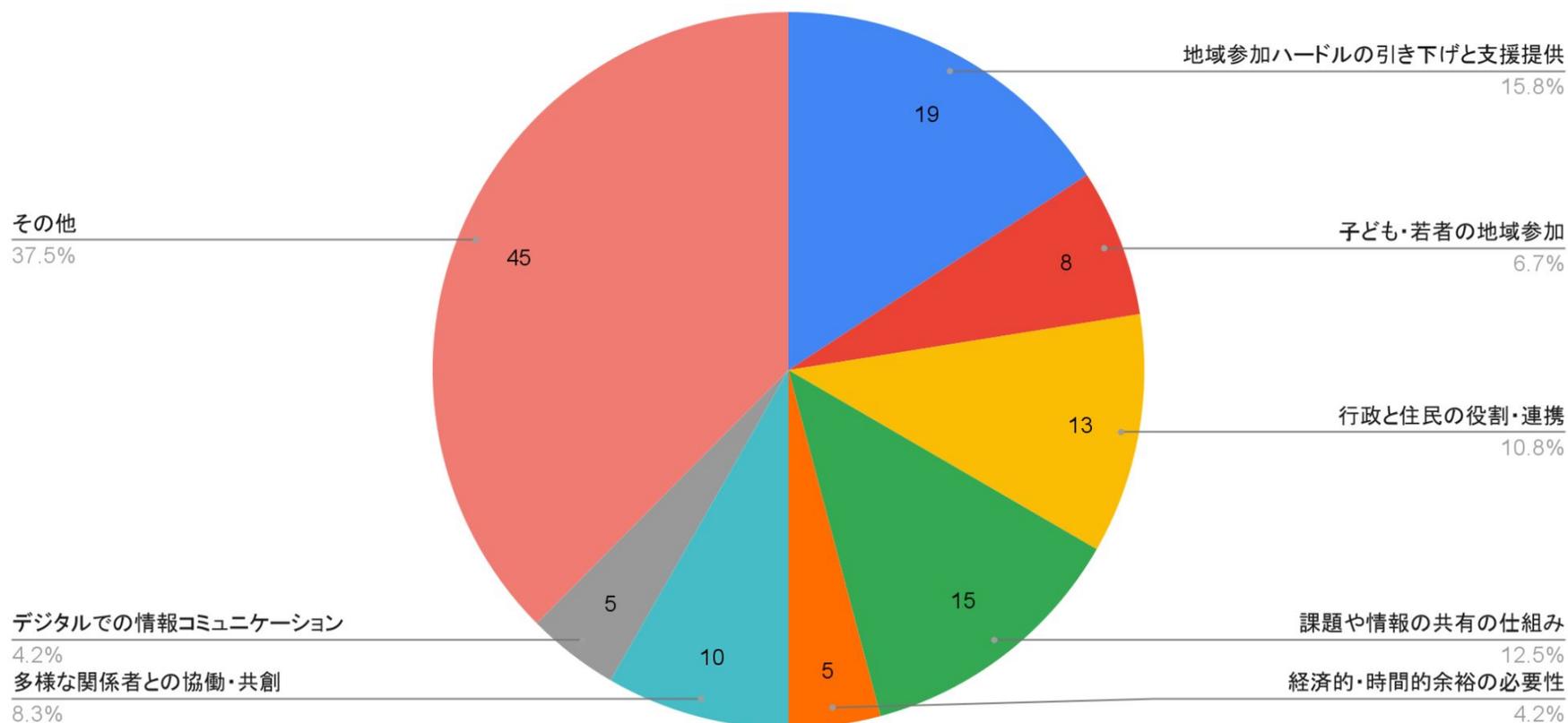
これから、地域づくりに取り組んでみたいと思いますか？ (UU 110人)



カテゴリごとの分析

地域活動に取り組むために必要なことを7つのカテゴリに分類に集計を行ったところ、以下のグラフのとおりとなった。最も多かったのは、「地域参加ハードルの引き下げと支援提供」となり、15.8%の獲得となった。一方で、「その他」においてはこれまでの地域活動への参加経験や、活動への賛同等の声が寄せられた

カテゴリ別 (n=120)



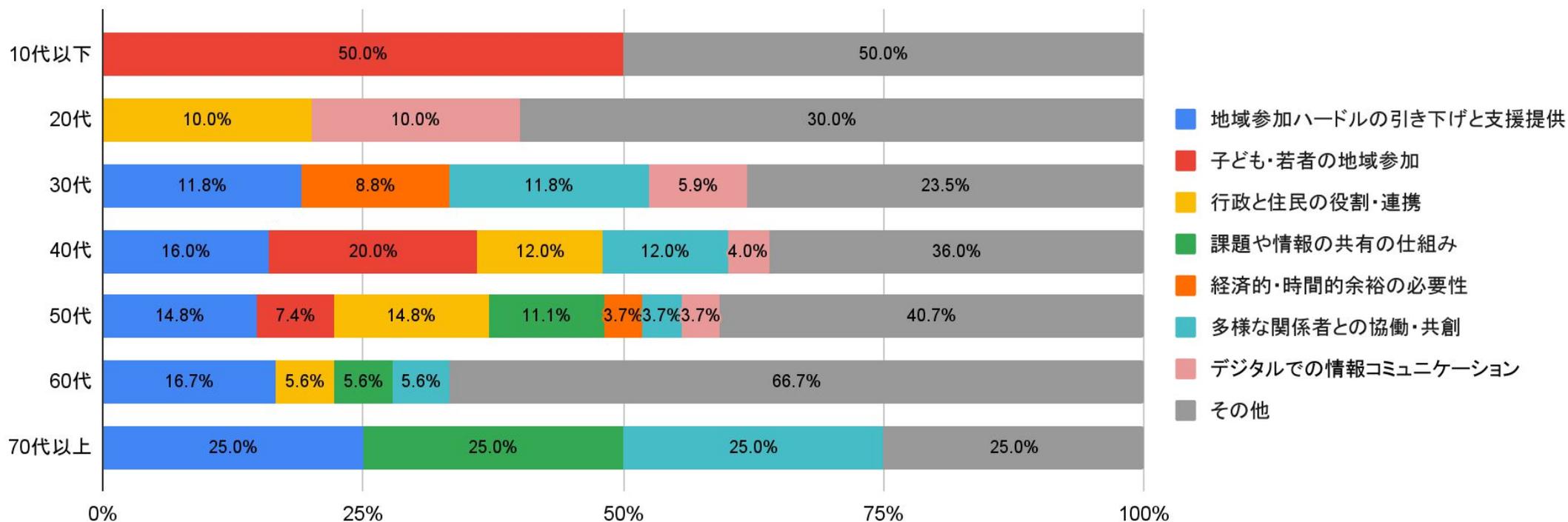
※n=120について
1つのコメントで複数カテゴリ化したものを含む。

クロス分析と考察

カテゴリごとの分析 | 年代×カテゴリのクロス分析

- 年代について、カテゴリ別のクロス分析を行ったところ、以下の通りとなった。

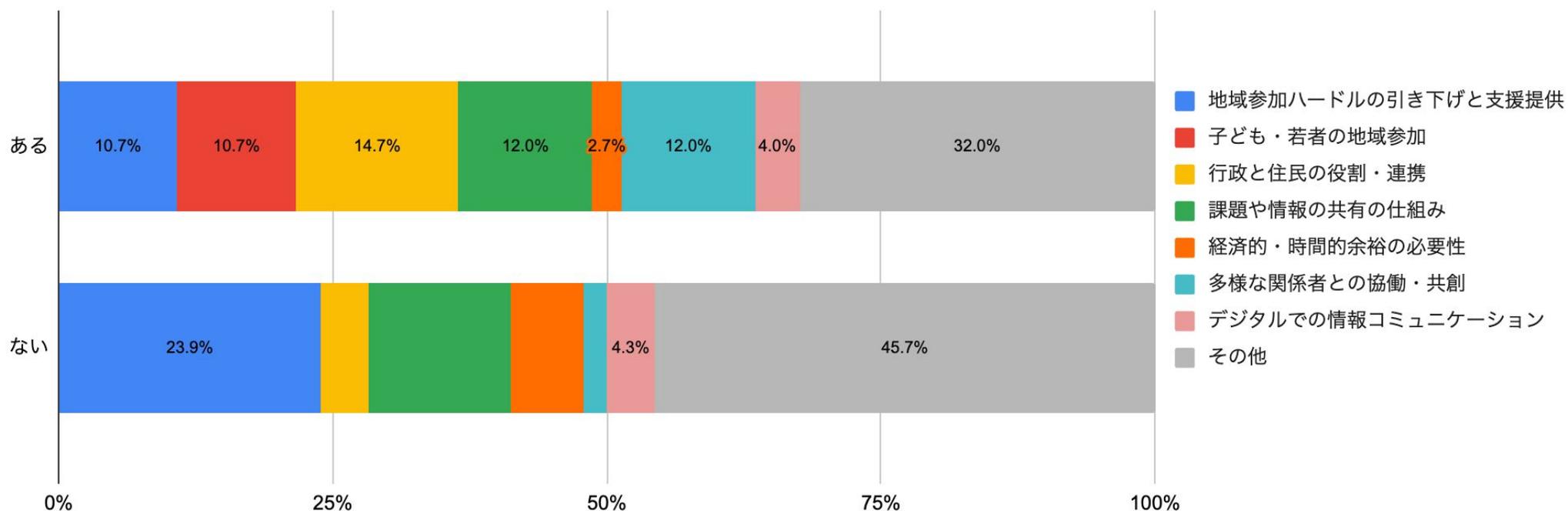
年代×カテゴリ



カテゴリごとの分析 | 地域活動への取り組み実績×カテゴリのクロス分析

- 地域活動への取り組み実績有無について、カテゴリ別のクロス分析を行ったところ、以下の通りとなった。

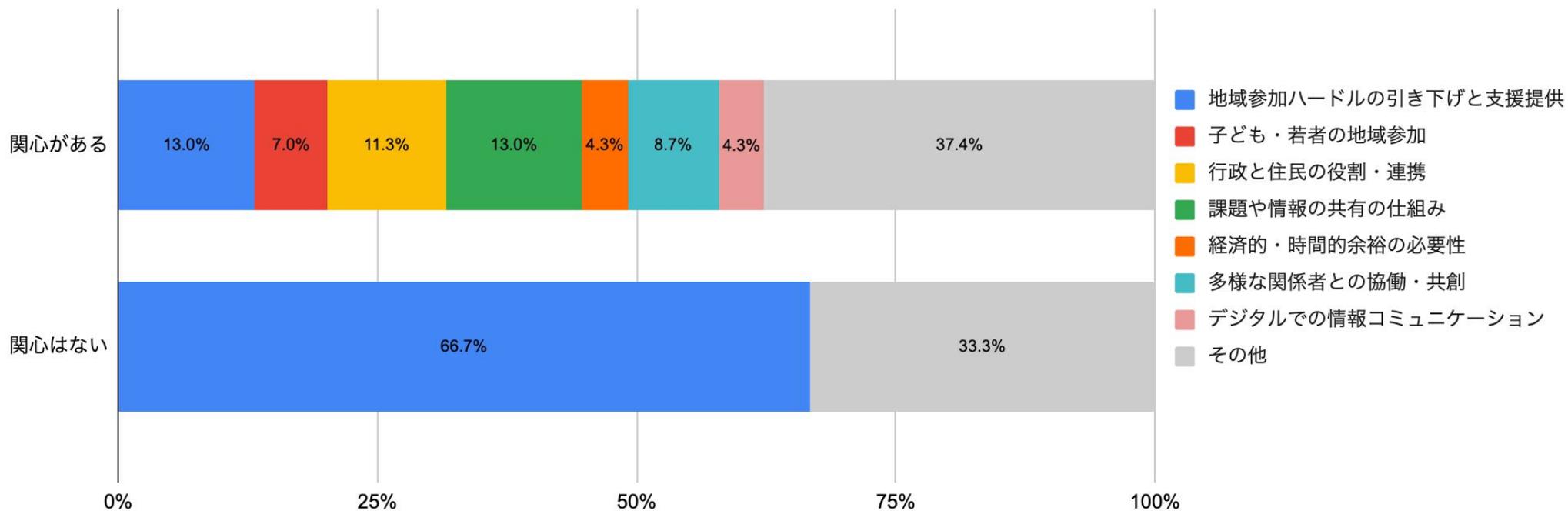
地域活動への取り組み実績×カテゴリ



カテゴリごとの分析 | 地域活動への関心有無×カテゴリのクロス分析

- 地域活動への関心有無について、カテゴリ別のクロス分析を行ったところ、以下の通りとなった。

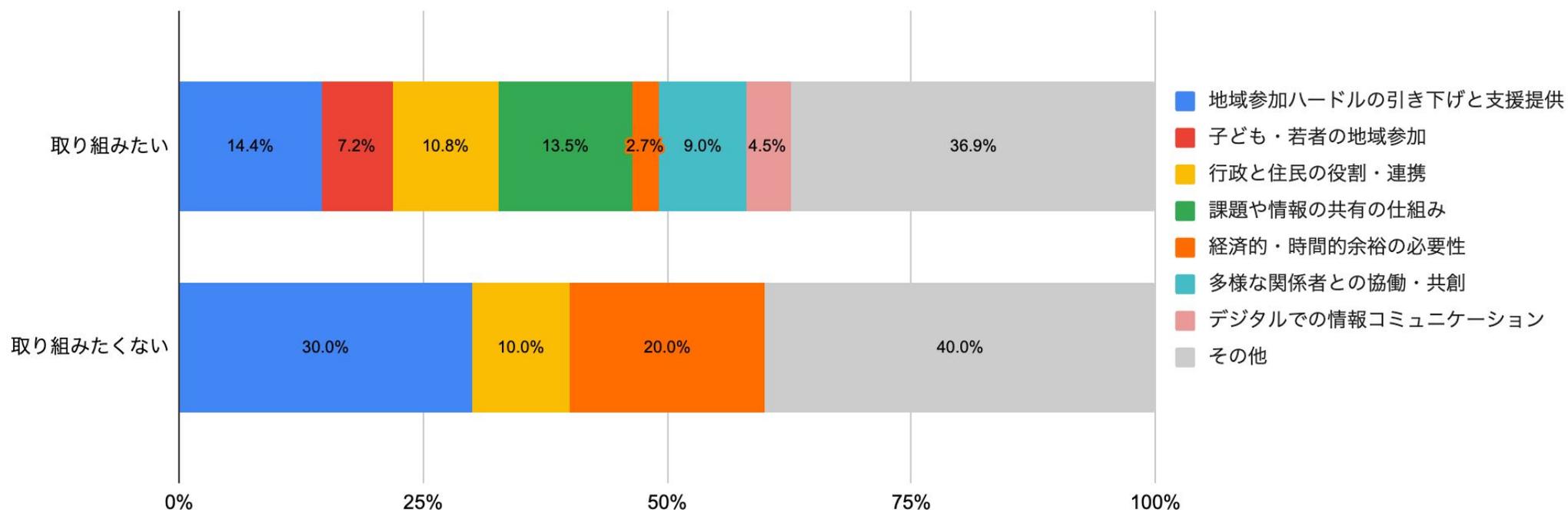
地域活動への関心有無×カテゴリ



カテゴリごとの分析 | 地域活動への取り組み意向×カテゴリのクロス分析

- 地域活動への取り組み意向について、カテゴリ別のクロス分析を行ったところ、以下の通りとなった。

地域活動への取り組み意向×カテゴリ



クロス分析と考察

- 30代以上の全ての年代で「地域参加ハードルの引き下げと支援提供」への回答が見られる。地域参加へのハードルの高さや、参加ハードルを引き下げるための支援についての回答が寄せられた。
- 地域活動に取り組んだことがあるユーザーは、全てのカテゴリに回答が集まった一方で、地域活動への取り組みがないユーザーは、「子ども・若者の地域参加」についての回答がないほか、「その他」のコメントが多くなっている。取り組みのあるユーザーの方が具体的に地域活動を捉えられていると考えられる。
- 地域活動への関心があるユーザーは、「地域参加ハードルの引き下げと支援提供」「課題や情報の共有の仕組み」について多く回答が得られており、参加するための具体的な支援施策やハードルについて言及していることがわかる。同様の結果が、「地域活動への取り組み意向×カテゴリ」でも見られた。
- 全体的に「その他」の回答が目立っている。「その他」では地域活動への賛同や自身の
- 経験について述べているユーザーが多かった。必要なことは回答しないまでも地域活動へ賛同している・経験しているユーザーからの声が多く集まっていたことがわかる。

代表的なコメント

代表的なコメント | 地域参加ハードルの引き下げと支援提供①

- 自分の住んでる地域が良くなるなら、地域づくりに参加してみたいけど、自分に何ができるかわからないし、どこに話をすれば参加できるのかもわからない。もっと気軽に参加できる仕組みがあるといいなと思う。（県内／40代、会社員・公務員）
- しっかり予算を確保して、参加者へのインセンティブを与えるところから始めていただきたいです。インセンティブの目的は、①参加者を大切に思っているという意思表示。②参加者が参加するための言い訳作り。③参加者の周辺への言い訳作り。
金銭的なインセンティブでなくともよいです。動機づけが重要だと思います。
その上で、プロジェクトで動かせる予算もある程度確保してから始めると結果が出やすいと思います。人を集めることは難しいです。集まる人がそもそも少なくなっています。（県内／40代、会社員・公務員）
- 地域づくりに関わりたい人が気軽にボランティアに参加できるような仕組みをつくる。（県内／20代、会社員・公務員）
- 自分が参加するのであれば、1) 誰でも参加しやすい、2) 精神的にも体力的にも金銭的にも負担が少ない、取り組みが有り難い。（県内／50代、会社員・公務員）

代表的なコメント | 地域参加ハードルの引き下げと支援提供②

- 地域づくりに関心があるけれども、行動するきっかけがない人も多いのではないかと思います。全ての人の行動を変えるのは難しいかもしれませんが、特定の層に絞って働きかける。テーマをより具体的にして、ワークショップや交流会を開催する。その後、参加した人が「地域でどのようなことに取り組んだか」について共有する。（県内／20代、会社員・公務員）
- 個人で参加するのは、非常にハードルが高いと思います。親子で参加や友達と参加、家族で参加など複数で気軽に参加できる工夫があるとよいのではないのでしょうか。また、単体のイベントではなく、参加体験型のイベントに併せて、地域づくりについて考える要素を取り入れるなどの工夫も必要であると思います。（県内／40代、会社員・公務員）
- 地域づくりに取り組みたいとは思っているが、何をしているのか分からない。また、自分に何ができるのか分からない。関心のない若者でも参加したいと思えるような施策またはイメージ刷新を是非お願いしたい。
また、私のイメージで恐縮だが、「地域づくり＝人手が厳しいところのお手伝い」というイメージが強いので、「新たな価値創造のための地域づくり」というイメージがあるとより関心を持つことができると思う。（県内／20代、会社員・公務員）

代表的なコメント | 子ども・若者の地域参加

- コロナで自治会とか育成会の行事が減って、以前と比べると子供が地域に関わる機会が減ったなと感じています。地域づくりに関わる増やすには、小さい時から地域で色々な人と一緒に楽しく取り組む経験を重ねることが大切だなと感じています。地域に親子で楽しく気軽に参加できる活動が増えるといいなと思います。（県内／40代、会社員・公務員）
- 学生が地域の中で必要だと思うことを見つけて、考えて、地域で提案できる機会があればいいなと思う。これからの地域を担う学生・若者の意見なら、応援したいと思う人は多いと思う。応援したい気持ちがあれば、いろいろな協力も集まるのではないかと思う。（県内／40代、会社員・公務員）
- 育成会会長をしたことがあります。小学生の子ども達が地域に関わる活動は学びも多く楽しかったのですが、中学校から上の学生達がより地域に関わる様にできれば（小学生に自分たちの経験を伝えられるようなBB制度のようなもの）良いのにと感じました（県内／20代、会社員・公務員）

代表的なコメント | 行政と住民の役割・連携

- 共創は聞こえはいい言葉ですが、具体的なイメージが共有しにくいと思います。実態としては、これまで行政だけが担ってきた社会課題の解決を行政以外に託す、いわば社会課題解決業務の一部民営化といったほうがわかりやすいと思います。
その上で、そのためには何が必要かという点、行政によるマネジメントだと思います。行政には多くの情報が集まっていることから、社会課題を見つける役割は担うべきです。そして、その課題を地域の多様な人たちに提示し、課題が解決されるようマネジメントを行うべきです。行政は共創においてプレーヤーにならず、マネージャーになるべきと考えます。
(県内／30代、会社員・公務員)
- 民間で始まっている動きに、積極的に県も関わってもらいたい (県内／40代、会社員・公務員)
- 共創するためには対話の仕方を勉強する必要があると思います。論戦ではなく、官民で対話をおこないながらよりよい地域づくりができればと思います。(県内／20代、会社員・公務員)
- 相手の話に真摯に耳を傾けることが大事だと思います。協働のパートナーを下請や元請けのような上下関係で捉えては十分な意見交換や意思の疎通はできないと思います。
また、県民からの申し出をひとくくりに「苦情」と扱うと大事な提案を見逃し、協働の糸口をうしなってしまう。
どんな人の話もきちんと聴くことが協働には必要です。(県内／50代、会社員・公務員)

代表的なコメント | 課題や情報の共有の仕組み

- 住民から見て、行政から見てなど様々な側面からみて地域にどんな問題があるのか、住民1人1人が知ることができること。知っていれば、動き出すこともできるし、アイデアだけでも広く集められると思う。（県内／20代、会社員・公務員）
- 様々な団体の取り組み内容を知ることのできる場、情報交換のできる場があると良い。例えば、居場所系の団体による居場所サミットなど。（県内／60代、自営業・役員）
- オンライン等も含めて様々な意見や立場を持った人が集まれる場を作ってもらえると良いと思います。障がいのある人、外国人の方といった方々が意見を出せることで、住み良い地域作りができると思います。（県内／30代、自営業・役員）
- 地域づくりにも関係する仕事をしています。上記の「ない」は、ボランティア的に取り組んだことがないという意味でないとしました。
地域づくりを共創で進めていくためには、地域が何に困っているのか、助けを求めているのかオープンになると良いと思います。そのためには、まずは地域の人たち（組織のトップではなく現場の人や若手）が地域のことを議論する場を設置し、その場をオープンにすることが大事かと思います。地域の格好悪いところを見せられないと言って閉鎖的な会合が行われますが、共創のためには必要なことと思います。（県内／30代、会社員・公務員）
- 一緒に活動してくれる仲間を集めるのに、範囲がどうしても狭くなってしまふ。企業との共創を考えても、なかなか思うようにたどり着かない。県に聞いてみても、担当部署がわからなければ相談できないとそっけない。今は共創相手を探し、意見交換できる場が欲しい。（県内／50代、会社員・公務員）

代表的なコメント | 経済的・時間的余裕の必要性

- ①その地域を知ること・自分の住む地域にどんな問題があるのか、また将来的にどんな問題が発生しうるのかを明確に知りたい。税金や環境的なものを含め
- ②ある程度の収入的余裕があること
 - ・そもそも問題提起をされている点に関して、お金と時間に余裕があり、地元で愛情がない限り難しいのでは？
- ③情報の簡易化
 - ・情報が、わかりやすく、すぐみれる、リアルタイムに見れる、過去もみれる（県内／30代、会社員・公務員）
- 世間的に一般的な週5日・8時間勤務では、そもそも時間がない。ライフスタイルや価値観の変化の結果、個が重視されるようになったのでただでさえ少ない自由時間を、周囲のために使うことははっきり言ってしないし厳しい。
短時間勤務でも今以上に収入が得られるとか、勤務時間内に地域づくりの活動が入る、あるいは職免を受けられるのであれば、やってみたいと思います。特に勤務時間内に地域づくりの活動が入れられるのであれば、「地域のためになにをすればいいかわからない」といった疑問をある程度解消できると思います。（県内／20代、会社員・公務員）

代表的なコメント | 多様な関係者との協働・共創

- 協働には対話が重要であり、共感は素晴らしい反面、誤解や対立を招く危険もあるため注意が必要です。多様な人々が混在する社会では、心理学的な本質観取やバウンダリーを活用し、お互いの違いを尊重しつつ本質を見つける対話が大切です。また、宗教や文化の違いを学び合い、共通の価値観を通じて課題に向き合うことで、建設的な関係を築くことができます。（県内／30代、会社員・公務員、※一部要約）
- 協働を契約化するには従来の委託契約では不十分であり、実務書や契約書の雛型が必要です。協働の原則には対等性などが含まれますが、組織規模の格差により担保が難しいため、条例整備などが求められます。また、実行者だけでなく、第三者的立場のアドバイザーが重要な役割を果たすべきです。（県内／60代、無職、※一部要約）
- ボランティア団体、企業、行政は互いに「できること」と「できないこと」を理由とともに共有し、基本的な情報を丁寧に伝え合うことが重要です。協働を進める際、課題への対応能力を明確にし、不十分な説明がある場合はそこから始めるべきです。また、公費は広範な課題に充てるべきであり、基礎自治体に対応すべき課題には慎重に判断し、安易な助成には毅然とした対応を求めるべきです。（県内／40代、会社員・公務員、※一部要約）

代表的なコメント | デジタルでの情報コミュニケーション

- 群馬県の広報や地域づくりは高齢者向けが中心であり、スマホが主流の現代では発信力が弱いと感じられます。高齢層と若年層の情報受信の感覚差を埋めるため、年齢層を問わず学生から高齢者までが関わる情報格差のない仕組み作りやデジタル講習の充実が求められます。また、高齢者特化型に偏らず、若者を重視して成長を支える地域づくりが必要だと感じます。（県内／30代、会社員・公務員、※一部要約）
- 地域の人が匿名で参加できるデジタル上のグループがあるとよいと思う。（LINEのオープンチャットのようなもの）実際に集まって会議を開くと意見を言いにくいですが、匿名での意見交換であれば、リスクはあるにせよ、意見交換が活発にすすみ、地域の課題がみえてくるのではないかと考える。（県内／60代、会社員・公務員）

代表的なコメント | デジタルでの情報コミュニケーション

- 群馬県の広報や地域づくりは高齢者向けが中心であり、スマホが主流の現代では発信力が弱いと感じられます。高齢層と若年層の情報受信の感覚差を埋めるため、年齢層を問わず学生から高齢者までが関わる情報格差のない仕組み作りやデジタル講習の充実が求められます。また、高齢者特化型に偏らず、若者を重視して成長を支える地域づくりが必要だと感じます。（県内／30代、会社員・公務員、※一部要約）
- 地域の人匿名で参加できるデジタル上のグループがあるとよいと思う。（LINEのオープンチャットのようなもの）実際に集まって会議を開くと意見を言いにくいですが、匿名での意見交換であれば、リスクはあるにせよ、意見交換が活発にすすみ、地域の課題がみえてくるのではないかと考える。（県内／60代、会社員・公務員）